

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 教授

氏名 伊藤潤哉

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

動物繁殖学に関連する講義・実習は動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。動物、とくに哺乳類に共通した繁殖生殖メカニズムや、一方で動物種ごとの違いについて基礎的な部分を身に着けるよう講義・実習を行っている。また、学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義・実習を行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物繁殖学	動物応用科学科	必修	2	136
動物受精卵移植論	動物応用科学科	選択	3	85
家畜人工授精特別実習	動物応用科学科	選択	3	41
地球共生論	獣医保健看護学科	必修	1	79
地球共生論	臨床検査技術学科	必修	1	88
生殖生理・不妊症学	臨床検査技術学科	選択	4	5
地球共生論	食品生命科学科	必修	1	55
地球共生論	環境科学科	必修	1	80
動物分子生殖科学	動物応用科学科	選択	3	92
動物繁殖学実習	動物応用科学科	選択	3	78
動物生殖制御論	動物応用科学科	選択	4	55
地球共生論	動物応用科学科	必修	1	137
地球共生論	獣医学科	必修	1	133
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	2
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	4	3
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	4
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	2
動物生殖科学特論Ⅰ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1
動物生殖科学特論Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1
動物生命科学特別演習Ⅱ－Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	2	2
動物生命科学特別研究Ⅱ－Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	2	2
動物応用科学特別演習Ⅱ－Ⅰ	動物応用科学専攻（博士後期課程）	選択	1	2
動物応用科学特別演習Ⅱ－Ⅱ	動物応用科学専攻（博士後期課程）	選択	1	2
動物応用科学特別研究Ⅱ－Ⅰ	動物応用科学専攻（博士後期課程）	選択	1	2
動物応用科学特別研究Ⅱ－Ⅱ	動物応用科学専攻（博士後期課程）	選択	1	2
動物応用科学特別研究Ⅱ－Ⅲ	動物応用科学専攻（博士後期課程）	選択	1	2

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

あらかじめ図を挿入したスライドを用い、iPadに板書する形式で講義を行っている。学生自身は講義を聞きながら、タブレットあるいはあらかじめ印刷した紙に記入する形で、理解を深めていく。講義中は「社会問題など身近な話題を提供することなどで学生の学問に対する興味を高める」「アクティブラーニング的要素を取り入れる」「双方向性を重要視し、講義中あるいは講義後に学生に対する質問を多く投げかける」を通して、学生が自主的に学び、自分の興味を追求できるようにする。その中で、データサイエンスやサイエンスリテラシーが次第に身につくように工夫する。これを通して、答えのない実社会で、臨機応変に対応して、自主的に作業し、成果を出せるような人材育成を目指す。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

2. とも関連するがあらかじめ図を挿入したスライドを用い、iPadに板書する形式で講義を行っている。学生自身は講義を聞きながら、タブレットあるいはあらかじめ印刷した紙に記入する形で、理解を深めていく。特に高校時には生物の科目はあるものの哺乳類の生殖についてはほとんど取り扱っておらず、もともと学生の興味も薄い。そこで講義中は「社会問題など身近な話題を提供することなどで学生の学問に対する興味を高める」「アクティブラーニング的要素を取り入れる」「双方向性を重要視し、講義中あるいは講義後に学生に対する質問を多く投げかける」を通して、学生が自主的に学び、自分の興味を追求できるようにする。その中で、データサイエンスやサイエンスリテラシーが次第に身につくように工夫する。これを通して、答えのない実社会で、臨機応変に対応して、自主的に作業し、成果を出せるような人材育成を目指す。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

学生と対話形式で授業を進めること、授業後に質問・感想をLMSを使用して書いてもらい、翌週その回答・解説を学生と双方向でやりとりすることでアクティブラーニングに取り組んでいる。

(2) ICTの教育活用

有

タブレットを利用し、書き込む形で講義を行っている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

学生からは高評価を得られていると感じている。

(2) 学生の理解度の把握

A

授業中に対話を行うことで、学生の理解度を把握するよう努めている。必要に応じて追加で説明するなどしている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

課題を提示することで自学自習をうながしている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

授業中に対話を行うことで、学生とコミュニケーションをとっている。

(5) 双方向授業への工夫

A

授業中に対話を行うことで、学生とコミュニケーションをとっている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

おおむね高評価であったが、iPadの文字が見つらいなどの意見が一部あったため改善に努めた。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

評価はよかった。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

引き続き学生の理解を高めるような授業を行っていく。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

対話による理解度の向上，板書を中心として学生に作業をさせることによる理解度の向上

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生からの授業評価は高いと感じている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

学内のFDには参加し，よりより授業を行うための取り組みを取り入れるよう心掛けた。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

より多くの学生が、生殖学や繁殖学に興味を持ち、また本来身に着けるべき知識や技術が全員に身につくような授業を心掛けたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。